

会社間取引の 照合プロセスをデジタル化し、 財務諸表の信頼性を高める

会社間取引照合・差異解消 (Intercompany Balance & Resolve) は、会社間取引管理において、例外的な取引を（月末や期末集中ではなく）日常的に特定し、差異解消のプロセスをデジタル化することで、信頼性が高く、決済可能な債権債務残高を手に入れることができます。

解決すべき課題

会社間取引の整合に費やされる多大な時間の50%は、例外取引の特定と解決に至るプロセスが手作業で行われていることに起因しています。取引の処理漏れ、数量や価格の不一致、為替換算、取引認識ずれ、その他特定し、修正しなければならない差異解消は毎月発生し、差額ゼロを目指すことが不可能に近いと言えます。

こうした手作業による会社間取引の処理は、決算期間の長期化や、以下のような様々な問題を決算プロセスにもたらしています。

- 経営の要請に応えるためのリソースの減少 (Diminished capacity for teams to meet business needs)
- 不要な貸倒計上 (Increased write-offs)
- グループの資金管理への悪影響 (Impeded cash management)
- 会社間取引における不十分な節税対策 (Reduced tax defensibility)

5百万ドル (約7億円)

グループ企業の決算修正にかかる1回あたりの平均コスト

主な機能

会社間取引の分析と照合

残高不一致の調整

自動照合と自動承認

例外的な取引の特定と調整、消込

ソリューション

BlackLineの会社間取引照合・差異解消 (Intercompany Balance & Resolve) は、会社間取引の照合と問題解決プロセスを標準化し、自動化します。残高不一致のデータへの自動でのフラグ付けと後続のワークフローの最適化によって、残高調整のプロセスが迅速に行われます。

機能概要

日常的に不一致データに自動でフラグ付けすることで、残高不一致の残高と差異の原因となった取引データの特定にかかる工数を削減し、処理漏れや誤処理のリスクを解消します。自動化され、デジタル化されたワークフローによって、残高の不一致をタイムリーに調整します。

- **例外取引の特定処理の平準化**
未決済の会社間取引は月末や期末ではなく日常的に分析され、各社の帳簿上の相殺対象となる取引が確認されます。例外的な取引には自動でフラグが立ち、担当者に自動で通知され、調査と問題解決のためのワークフローが始まります。
- **調整処理の自動化**
事前に設定されたルールに基づき、許容範囲内の差異を自動的に差異解消します。しきい値を越える差異については、各社の担当者間で解決策を調整しながら調査を行います。
- **決済**
差異解消結果に基づき、各社の会計システムを修正する場合は、債権債務の修正データにメモを添付し、各社の会計システムに連携することができます。連携された修正データが各社で承認されると、債権債務が決済され、後続の資金管理業務へと引継がれます。

会社間の債権債務の
残高不一致は、
ほぼゼロになった

Kraft Heinz

導入効果

60%

業務工数の削減

\$118,000

評価損の適正化による平均削減額

\$30M

例外的な取引による不一致残高の削減額

導入のメリット

可視性の向上

すべての会社間取引の内容や例外取引の状況をリアルタイムに俯瞰し、差異解消業務の平準化を実現します。

迅速な課題解決

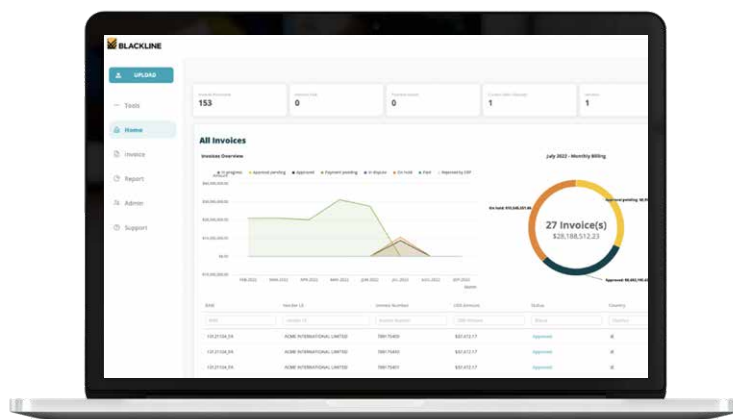
例外的な取引の特定と差異解消業務を平準化することで、月末を待たず、月中において決済可能な債権債務残高を確保することができます。

リスクの軽減

例外処理を平準化することで、企業収益に影響を及ぼすようなリスクを早期に特定し、決算への影響を回避することができます。

統制強化

企業ポリシーに基づいたルールベースでの自動処理とワークフローのデジタル化により、内部統制を強化することができます。



詳細はこちらをご覧ください

<https://www.blackline.jp/solutions/intercompany-financial-management/balance-and-resolve/>